

パラグアイ国の概要と
邦人移住地の概況

パラグアイ国の概要と

邦人移住地の概況

GA
708
23.4
EM
LIBRARY

C 19

1963. 7

パラグアイ国の概要と

邦人移住地の概況

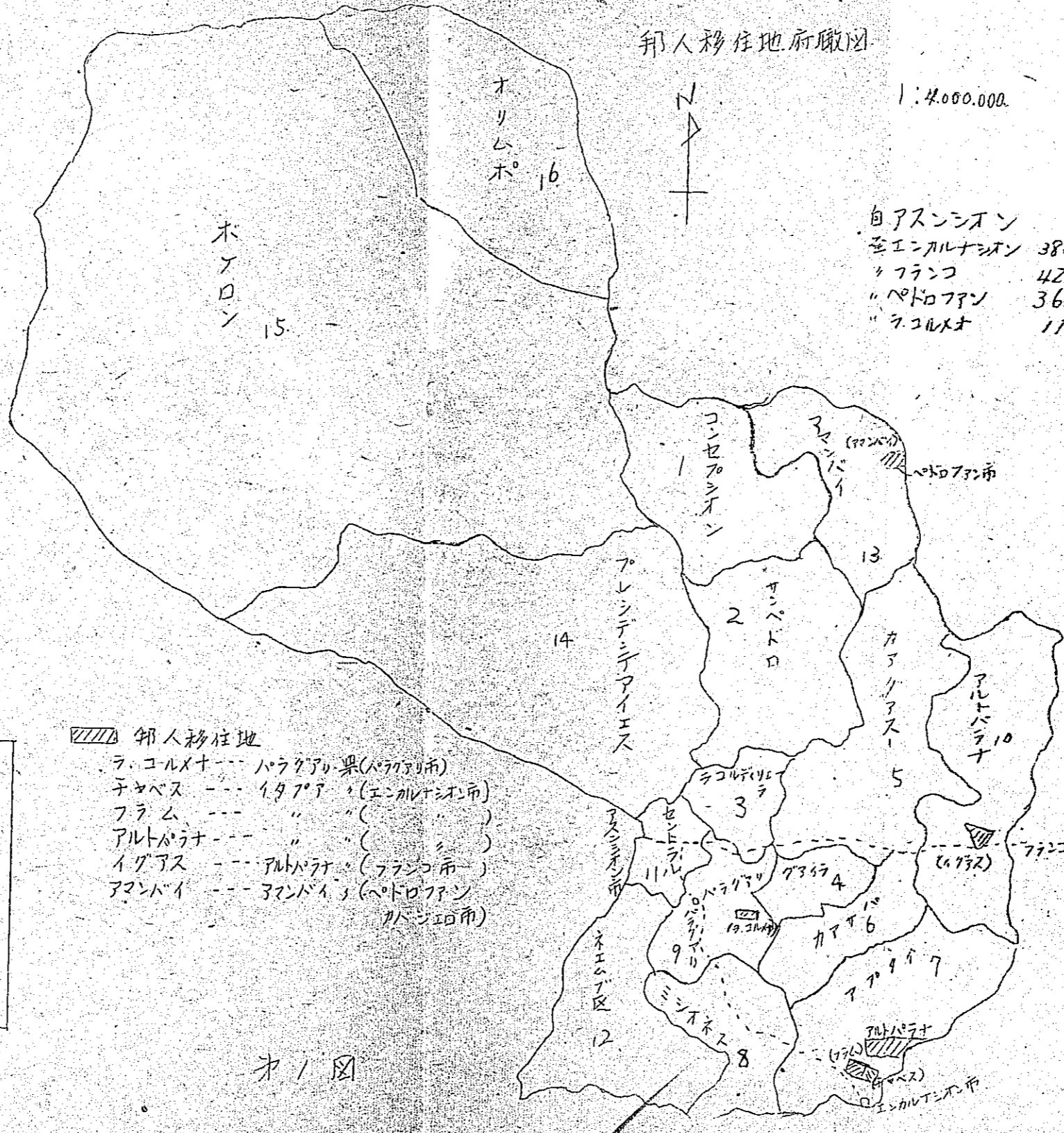
海外移住事業団

パラグアイ支部

国際協力事業団		
受入 月日	'88.2.24	708
登録 No.	08846	23.4
		EM

邦人移住地府職図

1:4,000,000



自アスンシオン	
至エンカルナシオン	380 軒 (陸路)
フランク	420 軒 ("
ペドロファン	360 軒 (空路)
コロレタ	170 軒 (陸路)

JICA LIBRARY



1041344[1]



邦人移住地

- ラ・コルメナ --- パラグアリ 県 (パラグアリ市)
- チヤバス --- イタプア (エンカルナシオン市)
- フラム --- " (")
- アルトパラナ --- " (")
- イグアス --- アルトパラナ (フランク市)
- アマンバイ --- アマンバイ (ペドロファンカバジェロ市)

カノ図

I. パラグアイ共和国の概要

1. 位置 西経54.45度より63.27度、南緯17.51度より27.30度
2. 面積 406,752平方キロ
3. 人口 1,874,000人 (1960年推定、口勢調査)

人口密度1平方キロ46人

人口増加率2.3パーセント

4. 歴史 1541年スペインの植民地となり1811年独立した。
首都アスンシオン市

5. 国の一般予算(1960年)

歳出の部 2,083,753千グアラニース

歳入の部 2,083,753 " "

6. 行政 (行政府) 大統領のもとに内務、外務、大蔵、宗務、土木、交通、教育、国防、国工、厚生、農牧、司法、労働の11省がある。

(地方行政) 首府を特別区として全国を16の県に分け、県知事は内相の任命になっている。地方自治組織として市町村があるが市制は人口3,000人以上を原則としている。

7. 経済

(1) 概況 低開発の農牧林口である。地下資源が貧弱なうえに交通の未発達と資本、技術の貧弱のため思うように開発が進まない状況である。

然し先進国の借款、外資導入、技術援助等により発展をほかるべく努められている。

(2) 貿易 市場としては米口及び欧州が主な相手口である。

1. 貿易収支

年度	輸出	輸入 (単位千ドル)
1955	35,097	28,955
1958	34,100	32,600
1960	29,978	32,430

2. 1960年度における主要な輸出入品および金額 (単位千ドル)

輸 出		輸 入	
食肉製品	7,136	食料品	5,981
木 材	5,032	機械器具	5,451
牛 皮	2,204	輸送用具	6,076
タンニン	2,950	燃 料	3,433
棉 花	297	織 物	2,475
植物油	1,542	鉄製品	1,719
マテ茶	2,418	化学製品及薬品	1,350
砂 糖	99	非鉄金属製品	1,253
畜 油	1,008	紙 製 品	760
タバコ	1,587	農機具類	477
その他	2,416	その他	3,022

8. 産業

□家経済をささえるものは農業、牧畜、林業であるが参考までに畜産と林業をかかげてみる

1. 畜産 1959年の輸出高の40パーセントは畜産物であった。

(1) 1959年の保有頭数(単位千頭)

牛 3,666 綿羊 160 馬 292

(四) 食肉輸出額 (FOB)

年 度	数 量 (キログラム)	金額 (千ドル)
1958年	18,587	8,059
1959年	19,328	9,618
1960年	17,874	7,136

(イ) 食肉加工

食肉加工の現状はコンビーフを製造する三社(英、米、パナグアイの三系)があり、製品は殆ど口内に卸されて
いない。

ロ 林業 森林は国土の54パーセント(約22万平方呎)
を占めているが当面開発可能なものは東南部地方
のみである。

総輸出額と林産物輸出の関係(単位100万ドル)

	1954	1956	1958	1960
総輸出額	34	37	34	27
木材	11	12	10	5
竹材	4	6	3	3
百分比(%)	45	50	39	29

9. 教育

制度としては小学、中学、高校、大学とあり他に特殊学校と
して士官学校、師範学校、商工農業学校、保健学校等がある。

1959年度の学校数

小学校	アスンシオン市(近郊)	194校	54,750人
	地 方	1,928校	241,789人
	教 師 数		10,411人

中高等学校

中高等学校	78校	10,994人
商業学校	32	4,849人
師範学校	37	7,105人
教師教		2,808人

10. 主たる都市

(1) アスンシオン市

当口の首都で人口約35万人と稱されている。

政治、経済、文化の中心地である。日本総領事館として付大使館し移住事業団の移住事業団部がある。この都市には多くの日本人がトコト等野菜作りに従事している。

(2) エンカルウシオン市

当口オニの都会と云われているが人口はわずかに3万5千と稱されている。

イタプア県庁の所在地で、この地方の経済、文化の中心地である。また農産物の一大集散地として知られているが特に対岸岬口のボサードス市との間物資の移動交通はげしいのが特徴である。現在パコに入植する日本人移住は全員この地で入口の手續を行つたうえ、それぞれの移住地に入植するわけである。

市内及び近郊に約50戸位の日本人が居住しており近郊を菜の栽培、酪農、商業等各種の事業に従事している。日本総領事館としては「移住事業団パラグアイ支部エンカルウシオン事業所」がパフワアの牧畜所内にあり、視察者の便宜供与、移住者の貸入、諸手續、農協指導等の任に当たっている。

市内にある事業団の施設としては

イ. バククア収容(宿泊)所 新来移住者の宿泊、入国手続等行
う場所として最近完成した、煉瓦建の永久建築であり延坪
約1,900平方メートルである。

ロ. バククア穀物乾燥庫(乾燥機付)

ハ. 倉庫 市内2棟 バククア1棟

(注: ロ及ハは農協連に貸与中である。)

この他市内にはイタファ農協連の事務所があり、各単協生産物の
販売・生活必需品の購入等の業務を行っている。

なお日本領事館が近く開設の予定である。

II. その他

言語…パラグアイ人の民族の言語はガラニ語である。パラグアイ
人はスペイン語とガラニ語を上手につかい分けている。

スペイン語は一般に公用語に用い、ガラニ語は感情を表現す
るに多く用いている。

(下層階級に属する者の日常用いする言語は殆んどガラニ語
である)

Ⅱ 邦人移住の経緯

1 戦前のラコルメナ移住地の設定

ブラジルにおける日本移民がいよいよ「二分制限法」によって困難になって来た。1930(昭和5年)頃から、パラグアイへの進出が有望視されはじめた。

その後、1935年(昭和10年)にいたり「ブラジル拓殖組合(通称ブラ拓)は特に専務、宮坂口人氏名義でバロ政府より日本移民100家族導入の特許を取得することに成功した。翌1936年(昭和11年)ブラ拓はアスンシオン市にパラグアイ拓殖部を置き、東南方約140キロメートルのパラグアイ州ラコルメナに旧大地主より10849ハクタールの土地を購入し、同年先づブラジルから指導移民として5家族(30人)を、かたがたに日本からの直来のオノ回移住者10家族(81人)を入植せしめたのが対バロ移住の嚆矢である。

2 戦後の移住再開せり小。かつ本邦内において移住の気運高まるにつれてブラ拓は再びバロ政府に申請し、1952年(昭和27年)120家族の邦人移住者導入の許可を得た。この移住者は当初ラコルメナに入植せしめる予定であったが、余地的な都合から、一部の移住者を入植せしめ、他はバロ政府の植民地チャベス(Chaves)に入植させることに変更された。

そして、これを皮切りに1955年(昭和30年)に誕生した移住振興会社によるフラム移住地(Fram)の購入決定および今日のアルトパラナ移住地の走りとなったピラホ地区購入等と進展した。

一方、1956年(昭和31年)には米人経営のカフェー耕地(CAFE)に邦人移住者38家族(260名)が雇用農業者として、始めて入植。1958年(昭和33年)までに138家族(900名)の入植を見た。かゝる気運に応じて、さうに将来の邦人の大量移住に備えて、1959年(昭和34年)には対バロ船舶借款(380万ドル)の供与および、これと見合せで30年間に85,000人の邦人入植のこと、その他を定めた日バ移住協定が締結された。

このため移住振興会社は、1960年(昭和35年)フラムの近傍に約84,000ヘクタールのアルトパラナ移住地を開設し、さらにアスンシオンよりブラジルのパラナグア港に通ずるいわゆる国際道路沿線に新たに94,000ヘクタール(後航空写真による測量の結果88,000ヘクタールとなる)の土地を購入し、イグアス移住地を開設した。

かくて邦人の対バロ移住は200,000ヘクタールに近い大集団移住地を控えて前途洋々たるものがある。

3 移住地別組合設立状況

移住地名	地区総面積	組合名	認可 未認可	移住者数(日系)			備 考
				組合員	非組合員	高 齢	
ラ・コルナ	11,000 ^{ヘクタール}	ラ・コルナ	1948.8.5	90 ^戸	50 ^戸 (非組合員9)	85 ^戸	フラム拓購入造成他にバロ人口組合員20戸
チャバス	80,000 (16,000)	チャバス	1958.7.18	49 ^戸 (273名)	62 ^戸	59 ^戸	バロ政府植民地
フラム (移住会社 購入面積)	15,730	富士	1957.9.23	96 ^戸 (540名)	35 ^戸	76 ^戸	移住会社購入造成(一部会社以外の土地)
		ラ・バース	1957.12.25	71 ^戸 (320)	10 ^戸	25 ^戸	"
		サングロサ	1958.2.28	143 ^戸 (787)	2 ^戸	10 ^戸	(一部会社以外の土地)
アルトパラナ	84,000	アルトパラナ	1961.10.6	200 ^戸 (1,525)	0 ^戸	20 ^戸	"
イグアス	88,000	イグアス	任 意	23 ^戸	0 ^戸	0 ^戸	"
アマソバイ	2,069	アマソバイ	1961.6.8	117 ^戸	0 ^戸	32 ^戸	地区総面積は組合員住所の合計面積

Ⅲ 邦人移住地および農業協同組合の沿革

1. ラ・コルメナ農業協同組合

(1) 入植の経緯

イ. 土地取得および入植許可

・ 1936年(昭和11)ブラジルは、パラグアイ県 ラ・コルメナの地に400家族の日本人移住者に分譲する(1家族1ロット)目録で約11,000ヘクタールの土地を大地主より購入し、20ヘクタール/ロットとして造成した。

・ パ国に対する日本人移住者導入の申請は、1935年(昭和10)に100家族が認められていたが、1936年の政変で登場したフランコ政権の内部には、この許可に反対する空気が強くなったため許可は一時的に停止となった。

・ しかし同年かなりきびしい条件が附加されて再び認められることになった。

(注--- この条件とは大統領令オノ26号のオノ条およびオム条で「日本移民は農業以外に従事してはならないまた生産物は輸送せず目的でのみ従事しなくてはならない。」

「日本移民はパラグアイ人の節制や人口の集中地帯に住むことは禁止する」というものであった。

入植は先ず1936年にブラジルから指導移民として5家族30人に引続き、日本直来のオノ回11家族81人が入植。以後1941年(昭和16)までの5年間指導移民3回、日本直来28回を合計193家族790人が相次いで入植した。

この間パラグアイ側では1938年(昭和13)に100家族の入口を許し、1939年には100家族の入口期間延長を許可、1941年(昭和16)には、さらに100家族の入口を許すというように日本人の入

口の許可料を払い過ぎていた。

然し、1941年オーストラリア世界大戦勃発によりオーストラリア移住をもって戦前の移住に終止符がうたれた。

(注---当時の入植者の資格条件としては家族営農資金として3000円以上を携行しなければならなかった。

日本政府としては「海外移住連合会」を通じて、家族あたり500円の貸付けを行った。

土地の分譲方法は、ロットス0ヘクタールを72,000ペソ(約1,200円)で、10年間に支払うことになっていた。

日本政府から渡される支度金は、12才以上のものに50円、7~12才のものに25円、3~6才のものに12.5円であった)。

ロ、入植の経路

入植経路としては、大部分はブラジル[]のマトグロソ州カンボグランデより乗船し、パラグアイ河を下りアスンシオンに上陸したが、最終回のオーストラリア移住者はオーストラリア直前のためパナマ運河の航行を禁止され、やむを得ず南米大陸の最南端マゼラン海峡を經由し、ブエノスアイレスに着いたものである。

ブエノスアイレスより河船に乗り替え、アスンシオンに向い、同地に上陸。

ハ、戦後の移住

戦後の入植者としては、1952年(昭和27)に、この地に対し、120家族導入の枠を取得したが、1954年(昭和29)に家族19人、1955年(昭和30)に6家族14人が入植したのみで、他に適地なく、やむを得ず当時創設されていたチバエス移住地へ振り分けられたことになった。

ニ、造成

ブラ拓による造成のうち、ロッテ割は、川の流氷を基本とし、谷口で
が必す川に接するようにした。このため向口、20メートル奥行、1000
メートル余というような短冊型の細長い耕地となった。

造成に着手した当時の土地の状況は原始林(Monte)地帯約8000
ヘクタール、原野(Campo)地帯約1500ヘクタール、山岳地帯約1400
ヘクタールであった。このうち耕地に利用出来る地帯は主としてMonte
地帯であった。

造成としては、この他、市街地が設定され、ブラ拓の事務所、倉庫
繰綿工場、精米所等が建設された。

(2) 移住者の動向

1. 入植ノゾ族族中26パーセントにあたる32家族は1941年までに退耕
した。

1942年(昭和17)パラグアイは日本との国交を断絶し、1945
年(昭和20)には、日本に対し宣戦を布告するにいたった。このため、
政府はラコルメナを日本人の送り込み地として、すべて日本人をこいに
送りこんだ。そして「干渉官」をおき日本人を監視した。当初は日本人
小学校に対する干渉のみであったが、後に植民地全体にわたる干
渉というように内容がひろがった。しかし日本人は他地域へ
旅行が制限され、また日本人小学校が廃止されるなどの不便はあ
ったが、生産者として従来とあり生産をつづけることには支障はな
かった。このような経緯のなかで、日本人移住者は全く不安な気持ち
で毎日をおごさなければならなかった。

しかし終戦とともに生気をとりもどし、生産も徐々に高利希望が
よみがえって来たかにみえた。

2. その後1946年(昭和21)にいたり、政変とインフレーションのため大量ノゾ

家族の7人の脱耕者を一時に出した。

その後毎年若干ずつの脱耕者が出、1955年(昭和30)までに入植以来の総合計より家族5人がラ・コルメナより他の地に土地を求めあるいは取業を変えて去っていった。

(なおこのなかにはチャハス移住地へ転住したと家族も含まれている)。

ラ・コルメナの移住地には以上のように入植、脱耕、命喪等を経て現在日本人120家族719人が生活をづけている。

(注: ラ・コルメナには現在日芭併せて約600家族の600人が居住)

(3) 組合の沿革

1944年頃より主作物である綿が土地生産力の低下のため、いちごは減収はじめた。また米、トウモロコシ、ホロント、落花生等も市場の狭小のため思うように販売出来ず、生産を何で支えていったらよいかわらぬ状態があらわれて来た。この状況を自覚し始めたとき多くの人々のなかに農業協同組合(Sociedad Cooperativa Agrícola)を結成しなけりばならぬの気運が盛り上がって来た。組合の結成にあたっては同じ移住者仲間が強い反対があったが、ブラ拓の資産である、華裕所、商店部、練綿工場、精米工場および牧場302ヘクタールを移譲されるということか切り札となり、先づ74人の組合員、5,700クワラの資本屋で結成されることになった。現在はその後、分家加入、脱退(除名)等を経て90家族の組合員である。

(4) 子弟教育

イ 日本語教育

ブラ拓は植民地建設計画のなかで教育を重視し、小学校を建て日本の正規の小学校教員を招いて、純日本式の義務教育を実施した。

したがって入植当初より才次大戦までこの地では日本の農村と同様の教育が行われていた。

(なお、スペイン語学校には日本語小学校3年終了後/年生として入学方式をとられていた)。

その後才次大戦終了と共に日本語小学校は閉鎖、没収されてしまった。今日ではおまかに週一回程度希望者による日本語学校の開設されている程度である。

ロ ス페인語による教育

現在バロの小学校(6年制)および中学校(3年制)がある。

(5) 主たる産業

イ 農作物

永年作 フドウ、柑橘

短期作 落花生、棉、王ねぎ、大豆、水稲、小麦等

ロ 組合の事業

フドウ酒(コルメーダ)製造工場

年間 22万リットル(572万ガラス)

練棉工場

年間 5万キログラム(850万ガラス)

(6) 参考事項

最高級所得者の営農状況 (A氏 = 家族8人、稼働者4人 = 1962)

7.3/果樹の過去1年間の営農実態調査書刊)

土地所有状況 100ヘクタール

内訳 耕地 20 (永年作0.4、他短期作) 休耕地 10、未墾地 35、草地 30

所有家畜 乗馬1、乳牛5、豚6、肉牛7、鶏50

所有建物 家屋80平方メートル/棟、家屋45平方メートル/棟

倉庫15 " "

収入 営農収入(永年作) 種類 作付面積 販売額

(A)

フドウ 0.4ヘクタール 5,510ガラス

(短期作) 水陸稲 0.5 " 42,000 "

	マリス	3.0	20.000
	玉ネギ	0.2	15.390
	ホロホ	9.5	139.200
	マンゴ	0.5	12.000
	タバコ	0.5	17.500
	棉	10.25	300.275
	馬鈴薯	0.4	28.641
	小麥	0.7	3.250
(畜産)	牛乳	—	4.000
	豚肉		8.250
	豚油		17.000
	卵		3.000
合計			616.016

支出

農業經營費 (B)	肥料	8.000
	種苗	15.000
	薬剤	20.000
	中小修繕費	2.000
	加工費	5.200
	光熱動力費	1.000
	小農具費	5.000
	労賃	138.000
	農舎農具修理費	12.000
合計		206.200

家計費 (C)	主食費	33,150
	副食費	40,000
	嗜好品	20,000
	被服費	35,000
	学校放課費	21,500
	医療費	15,000
	交際費	8,000
	光熱費	3,750
	教養文化費	5,000
	合計	181,400

差引余剰

$$A - (B + C) = 228,416 \text{ グアラニース}$$

2. チヤバス農業協同組合

(1) 入植の経緯

当チヤバス (CHAVES) 移住地は、1953年にバロ貧民救済事業の一環として農業改良局 (Instituto de Reforma Agraria = IRA) 管理のもとに創設されたものである。

一方1952年 (昭和27年) 有限責任ブラジル拓植組合は、ラフルメナ植民地に120世帯導入の枠を取得したが入植適地が殆どなかったため導入不能の状態であった。たまたま在邦の笠松、石橋氏等はこの状況の打開を兼ねて当チヤバス移住地に邦人を導入すべく、引受機関として「日芭拓植組合」を設立し120家 (各戸当り20ヘクタール) 導入の枠を取得し

た。先ず第一陣としてラヌルメナより邦人8家族が転住した。その後1954年(昭和29年)に日本から6家族が入植し以来1956年までに前後4回にわたり110家族が入植した。なおこの移住地は戦後の他の邦人移住地と異なり日米混合の植民地である。

(2) 組合の沿革

1956年8月(昭和31年)邦人入植者34戸をもつて任意組合を結成したが1958年にいたり法定組合として正式に認可を取付けた。当時の組合員64名、その後一時組合員数約100戸となったが、組合指定農産物の横流しのため約60パーセントの組合離脱者乃至除名者を出し、ゆがかに41戸の組合となった。現在若干のパロ入を含め49戸になった。

(3) 組合の認可年月日

1958年7月18日

(4) 組合の事業区面積(別添図面)

タバコ植民地約80,000ヘクタールのうち邦人関係は口道西側約16,000ヘクタールのうちである。

(5) 組合員数

49戸(273名)

(6) 組合の役員数

理事 7名(任期2年)

(専務常勤)

監事 3名(任期3年毎年1名づつ改選)

(7) 出資金

1. 1口 20,500ゲラニース

内訳

- 加入時現金 500 グアラニース
- 残日指定生産物代金の4パーセントを積立てる。
- ロ、組合の目標額 1,004,500 グアラニース
- ハ、既払込出資金額 488,196 43 グアラニース
(1963年2月末現在)

(8) 組合の資産

- イ、建物 取員宿舎 2棟 (農協敷地内)
- ロ、車輛 トラック 1台 (イズズ6t)
- ハ、機械類 トラック79- 1台
製粉機 1台

(9) 営農状況 (組合員のみ)

イ、1962年度迄の永年作物植栽面積

年次	種 類 別 (単位ハ79-ル)			
	油 桐	こけ茶	柑 橘 (含ネトロ)	その他
1957年 (含55,56年)	66.5	22.2		
58	18.0	15.4	8.1	
59	8.0	6.9	20.4	
60	28.5	7.0	7.6	
61	123.8		9.0	
62	66.2		12.8	
合計	311.0	51.5	59.9	5.9

ロ、1962年度末所有家畜数

- 牛 68頭 (役牛44 乳牛24)
- 馬 53 (耕馬 策馬)
- 豚 337 (油豚 肉豚)

ハ 1962年の作付耕地総面積 931.9ヘクタール

(1戸平均 19.0ヘクタール)

ニ 1戸当り平均粗収益 145,350円プラス

ホ " 生活費 43,000 "

ヘ " 運営費 63,000 "

(10) 参考事項

1. 最高級所得者の例

(F氏稼働者3人.....組合經由農産物を中心とした経営)

耕地面積 50ヘクタール

(永年作21 短期作32.5.....一節同作)

永年作

油桐 20ヘクタール 400,000^円プラス

柑橘 1ヘクタール 10,000

短期作

ライス(1期) 4ヘクタール 42,000

" (2期) 10 " 70,000

大豆 10 " 120,000

水稲 4 " 160,000

小豆 1 " 10,000

雑豆 1 " 12,000

野菜類 2.5 " 75,000

合計 899,000

営農生活費

150,000

ロ 子弟教育

。 学費

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
日本人	18	11	12	9	7	7	64
現地人	74	54	42	26	7	4	207
合計	92	65	54	35	14	11	271

注 (イ) 本統計は中央校及びウルグアイ小学校の補助金建築2校のみのものである。

(ロ) ウルグアイ校は4年までである。

(ハ) この他に日本人子弟15名位が他の小学校に通学している。

○ 教師数

中央校 3名 ウルグアイ校 2名

○ 日本語教育

中央小学校において毎週3回実施生徒数35名、教師1名。

ハ 治安関係

警察の管轄としては地区を二分(E線)17へミス警察とカピタンミランダ警察が治安の任にあたっている。カピタンミランダ管轄には派出所(D線添農協隣)が設置されている。

ニ 組合事業区域内に在る事業団建築の施設

(イ) 小学校2棟 (中央校、ウルグアイ校各1校)

(ロ) 倉庫1棟 農協事務所、販売所、物品倉庫として利用。

3. 富士農業協同組合

(1) 入植の経緯

当初1955年(昭和30年)にフラム土地会社の分譲地(ロット50ハクツール)に6家族入植したのがこの地の第一次である。その後旧移住振興会社がフラム土地会社より土地を購入し邦人移住者のために造成を行い分譲することになった。

入植は前記6家族に引続きカールメン、アペリヤを經由して行われたが比較的早期の組のほかにはアペリヤ地方のロシア人移住者の古い耕地を入手し落着いたもの、大和地区にてフラム土地会社より直接購入した者(このうちの者は当初ラバス農協に加入した後富士一にりつた)等があったが、大部分は更に前進してチャバス移住地西北方隣接の旧会社造成の「フラム移住地」へ入植した。

(2) 組合の沿革

1956年11月アペリヤ、大和地区の入植者を除く26戸にて共同の経済的發展を企図して任意組合を結成。

1957年9月にいたり法定組合としての「富士農業協同組合」が認可された。認可時組合員数は105戸であった。その後アペリヤ、大和地区の入植者とラバス組合より移り1961年には一時的140戸を数えたが、その後組合の経営等影響して脱退者除名者が出、現在では90戸を割っている状態である。

組合運営の下部機構として次の8実行組合がおかれている。

千代田、エスペランサ、セントラル、愛媛、新生、富士、大和、アペリヤ

(3) 認可年月日

1957年9月23日

(4) 組合の事業区(別添図面)

フラム土地会社の分を併せ68,400ハクツール

(5) 組合員数

96戸(540名 = 1963年2月現在)

(6) 組合の役員数

理事 9名(任期2年)

(専務常勤、他に暫定措置として専務2名おき常勤とす)

監事 3名(任期2年)

(7) 出資金

イ. 1口 41,000 ヲアラニース

内訳

加入時現金 1,000 ヲアラニース

残は指定生産物販売代金の4%を積立てる

ロ 組合の目標額 5,166,000 ヲアラニース

ハ 既払込出資金額 859,009.00 ヲアラニース

(8) 組合の資産

イ. 建物 ----- 事務所 1棟 共同販売所 1棟

炊事場兼取員宿舎 1棟

車庫兼農機具舎 1棟

ロ 車輛 ----- トラック(イヌズ6ト) 1台 軽トラック 1台

ハ 機械類 ----- 澱粉加工機 1台

(9) 営農状況(組合員のみ)

イ. 1962年度迄の永年作物植栽面積

年次	種 類 別 (単位ヘクタール)			
	油 桐	マテ茶	ホメロ	その他
1957	27.3		0.5	
58	35.7	3.5	18.0	
59	17.4	42.5	9.9	
60	116.5	43.0	2.6	

61	359.2	19.5		
62	320.0	16.0		
合計	876.1	124.5	31.0	

□ 1962年度米所有家畜数

牛 195頭 (乳牛20 役牛40 肉牛135)

馬 159頭 (耕馬15 乘馬)

豚 1,059頭 (油肉兼用)

ハ 1962年の作付耕地総面積

(1戸平均)

ニ 1戸当り平均粗収入 ----- 88,500円

ホ " 生活費 ----- 48,000

ハ " 営農費 -----

(10) 参考事項

イ 最高級所得者(特殊)の営農例

[氏] 家族5人、稼働者2人 = 1959年入植

土地所有面積 150ヘクタール

所有家畜数 馬7 乳牛3 豚40 鶏100

所有建築物 家屋 1,000㎡ 倉庫 2,000㎡

所有主要機械類 原動機2 動力2 脱穀機2

脱粒機1 精米機1 ジェット

トラクター1

その他 ミクロバス1台

収入

営農収入

(A)

(永年作)

油 桐	34	ハクダール
マテ茶	4	"
ホメロ	7	"
その他	4	"

(短期作)

水 梅	6	ハクダール	120,000	7/3ラース (自家保蔵を除く)
マ イ ス	10	"	60,000	"
大 豆	80	"	216,000	"
マンジョカ	3	"	0	"
柿	12	"	108,000	"
その他	2	"	17,000	"
合 計			527,000	

農外収入

(B)

トラック運賃	200,000	7/3ラース
マイクロバス	600,000	"
機械類賃料	30,000	"
その他	6,500	"
合 計	836,500	

支 出

農業経営費

(C)

種 苗	51,000	"
薬 劑	32,000	"
光熱動力費	75,000	"

小農具購入費	70,000 ヲラ=ス
学 賃	216,000 "
農舎農具修繕費	15,000 "
合 計	395,100 "

家計支出

(D)

主 食 費	0 ヲラ=ス
副 食 費	44,400 "
嗜好品	30,000 "
被 服 費	3,600 "
学校教育費	39,600 "
医 療 費	1,200 "
交 際 費	24,000 "
そ の 他	18,200 "
合 計	156,000 "

農外支出

(E)

人件費(給料)	234,000 ヲラ=ス
燃 料 費	286,000 "
保 險 其 他	50,000 "
修 理 費 等	70,000 "
そ の 他	28,000 "
合 計	668,000 "

差引余剰

$$(A+B) - (C+D+E) = 138,400 \text{ ヲラ=ス}$$

子弟教育

学童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
日本人	10	22	31	22	25	6	116
現地人	21	16	12	16	23	2	90
合計	31	38	43	38	48	8	186

注：(イ)本地区は本年度より千代田、大和、富士の3校を統合し

(ロ)通学には移住事業団貸与のスクールバス(トラック)を運行している

(ハ)この他にテルフィンチャモロ校およびアペリヤ校、その他現地人小学校に通学している生徒(約10名程)を数定す。

教師数 9名

日本語学校

本年4月1日より同校毎週2回生徒数121、教師2名

治安関係

アペリア警察の管下で請願巡査(移住者側にて給料、諸経費負担)を雇備している。

駐在所は農校隣

組合事業区内に在る事業団建築の施設

(イ)小学校 2棟 --- 旧富士校、旧大和校の移築ノ棟

(ロ)教師住宅 1棟 --- 旧千代田校の移築

(ハ)公会堂 2棟 --- 旧大和千代田の各半棟を残置

(ニ)倉庫 1棟 --- 農協所在地に購買品、販売品倉庫として利用(計2棟)

ホ 特記事項

この組合は過去に於いて放漫な運営のため相当な赤字を出し

現在再建に必死の状態である

このこともあすか、従来から行っていた非経済行為と思われる自治行政的な仕事を一部剥离することを決定した。(現在他の組合は殆ど自治行政的なことを取扱っている)

このたりの富士管下の全員(組合員、非組合員の別なし)で非経済的な業務を取扱、找肉として次のような任意自治団体である「ニッホニヤ(Nipponia)」町を結成した

取扱業務 教育 治安 衛生 土木 諸手続等

三 役 町長(公選)

助役 収入役(書記兼務)

議 員 各区よりノ名ブノ送出

(各々は前記実行組合と同単位、但し

アペリヤのみ地理的關係で未参加)

予 算 各戸より分担金で徴収

4. ラパス農業協同組合

(1) 入植の経緯

1956年未より広島県沼隈町を出身地とする集団移住オノ陣がアペリヤ経由、フラム移住地に到着した。引続きオノ陣もアペリヤを経由したが、オノ陣以降はチャベスD線より入植した。

(2) 組合の沿革

広島県沼隈分町の集団移住者57家族は当初備後開拓組合をつくらなかったが同一地区および若干離れたところからアペリヤ、大和地区に入植した他県の入植者とも共同して経済の発展をはかろうと協同組合を結成、1957年暮に法定組合として認可されるに至った。

その後、アペリヤ、大和地区の入植者が地理的關係等から脱退し富士組合に移った。また一時組合運営に関する意見の衝突等あり若干混乱したが現在は平穏にもとめている。

(3) 認可年月日

1957年12月25日

(4) 組合の事業区面積(別添図面)

約3,000ヘクタール

(5) 組合員数

71戸(320名)

(6) 組合の役員数

理事 9名(任期2年)

(専務常勤)

監事 3名(任期2年)

(7) 出資金

1ノロ 20,500 ヲアラニース

内訳

加入時現金 500 ヲララニース

残は指定農産物販売代金の4%を積立

ロ 組合の目標額 1,455,500 ヲララニース

ハ 既払込出資金額 612,507 ヲララニース

(8) 組合の資産

イ 建物---炊事場兼会議所ノ棟 倉庫2棟(ノ棟農機ノ棟
は九州地区)

ロ 車 輛---トラック2台(ノ台償還済)
ジ-70ノ台(広島県人ヨリ借入)

(9) 営農状況(組合員のみ)

1. 1962年度迄の永年作物植栽面積

年次	種 類 別 (単位ヘクタール)			
	油 桐	マ 干 茶	ホ ー 口	その他柑橘
1958	9.0	8.0	1.5	0.1
59	35.0	10.3	-	-
60	50.5	5.2	-	1.65
61	107.1	7.0	0.5	2.5
62	315.0	11.0	-	2.35
合計	516.6 (418.0)	35.5 (21.0)	2.0	6.6 (4.5)

注：合計欄()内数字は除名者を出したため減少した数字である。

ロ 1962年度末所有畜畜数

牛 31頭(肉耕)

馬 75頭(耕馬30 乗馬45)

豚 650頭(油肉)

ハ 1962年作付耕地総面積 --- 1,000ヘクタール

(ノ戸平均 15.0ヘクタール)

ニ ノ戸当り平均粗収入-----1,500,000 ヲアラニス

ホ 生活費-----280,000 "

ハ 営農費-----

(c) 参考事項

イ 最高所有者の例(M氏)

耕地所有面積

50ヘクタール

粗収入

2,600,000 ヲアラニス

(内訳省界)

ロ 子弟教育

。学童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
日本人	11	17	19	18	16	9	90
現地人	4	4	1	2	-	-	11
合計	15	21	20	20	16	9	101

注：aオノ小学校およびbオノ小学校(分校2年並)の合計数である。

○ 教師数

オ、小学校 3名(内、名目系) オ2小学校 1名

○ 日本語学校

毎週1回実施、生徒数 62名、教師 1名

ハ、治安関係

富士組合の場合と同様

ニ、組合事業区内にある事業団建築の施設

α 小学校2棟 オ、小学校およびオ2小学校各1棟

β 共同販売所1棟 農協事務所 購買部として利用

(ウ)、事業団の施設

イ、イタプア地区指導農場 フラム分場

5号線そばに農場面積 200ヘクタールの指導農場が開
設され、専農指導各種試験研究に従事している。

現在の圃場面積は約60ヘクタール、本年度より、の農
場を特に畜産関係のセンターとすべく、畜産技師を中心に努
力中である。

施設 事務所本館(木造) 1棟

宿舎兼炊事場() 1棟

職員宿舎() 1棟

収納舎() 2棟

車庫() 1棟

農具舎() 1棟

種子産(煉瓦建) 1棟

畜舎(木造) 1棟

鶏舎() 1棟

これ等の他に、ハチン小屋が地区内に点在している。

車輛類としてはトラック、ジープ、トラクター 各ノ台を常備して
いる。

フラム診療所

農場に隣接し診療所が開設されており医師ノ名(産婦人科
兼外科)看護婦ノ名が常駐している。

施設 診察室兼病棟 / 棟

医師 住宅 / "

車 庫 / "

5. サントローサ農業協同組合

(1) 入植の経緯

1957年高知県大正町を中心とした農団入植者は、フラム移住地の最北端に入植すべくエンカルアシオンより国道を北上し、ハラス街を経由して、現在地点に入植した。

その後、数次にわたり入植し現在の144戸となったものである。

(2) 組合の沿革

1957年6月、前記地点に入植した高知県出身の21家族は、任意組合フラム大正農業協同組合を設立した。

その後、抜続移住者の入植と相まち、同一地区に入植した他県の移住者を含め1958年正式に「サントローサ農業協同組合」として法定組合の認可をうけ今日にいたっている。

(3) 認可年月日

1958年2月28日

(4) 組合の事業区面積(別添図面)

約9,600ヘクタール(移住会社以外の土地も含む)

(5) 組合員数

143戸(787名)

(6) 組合の役員数

理事長 10名(任期2年)

(専務を置かず参事制をとる)

監事 3名(任期2年)

(7) 出資金

1. 1口 41,000アラニーエス(最高2口)

内 訳

加入時現金 1000 グアラニーエス

残は指定農産物販売代金より4%の積立。

ロ 組合の目標額 5,904,000 グアラニーエス

ハ 既払込出資金額 2,422,817.88 グアラニーエス

(8) 組合の資産

イ 建物……組合事業所1棟、職員住宅2棟、炊事場1棟、職員住宅兼
診療室1棟、倉庫(販売)1棟、保安官駐在所1棟、
支所1棟

ロ 工場……マテ茶オ/次加工工場 3棟(処理能力1日生葉3トン)

ハ 車輛……トラック3台(新車2台、中古1台)各6トン積、
ジープ1台、(トレーラー2台)

(9) 営農状況(組合員のみ)

イ 1962年度迄の永年作物植栽面積

年次	種 類 別 (単位:ヘクタール)		
	油 桐	マテ茶	ポ × ロ
1958年	18.0	42.0	7.8
59	27.6	(3834)207.9	20.85
60	78.7	(856)45.5	34.15
61	409.3	25.2	5.7
62	303.6	18.8	17.9
合計	837.2	346.4	86.0
1963年目標	574.25	55.5	55.05

注: マテ茶欄()内数字は植付面積であるが早魃により減少

ロ 1962年度末所有家畜数

牛 129頭(乳牛40、役牛21、肉牛68)

馬 103頭(乗馬49、耕馬39、車馬15)

豚 2,536頭(内成豚1,060)

ハ 1962年作付耕地総面積……2,677ヘクタール

ニ 1戸当り平均粗収入……1,65,856 グアラニーエス

ホ “ 生活費 34,350 “

不 1戸当り平均営農費 73,940.77ラニース.

(10) 参考事項.

イ 1962年度作付(短期)面積(単位ヘクタール)

メイス(1期)	465.8	落花生	3.2
〃(2期)	16.3	米	148.8
大豆	1,247.9	他にマンデオカ等	
雑豆	181.5		
棉花	373.3	合計	2,436.8

ロ 1962年度組合員総収入および総支出明細

◎収入

(農業収入)

(農外収入)

大豆	8,072,143.77ラニース	2,819,087.77ラニース
メイス	4,082,235.〃	(給料、製材、預金利子等)
白米	1,434,612.〃	
小麦	93,477.〃	
雑豆	1,042,486.〃	
棉花	2,486,222.〃	
油桐	13,226.〃	
マテ茶	1,091,013.〃	
アラサ (豚油)	753,708.〃	
合計	21,893,209.77ラニース	

◎支出

生活費	4,902,339.77ラニース
営農費	10,573,500.〃
土地代金	1,596,950.〃
借入金利子	1,218,373.〃

運賃手数料 2,324,472. グアラニース
 出資積立金 762,764. "
 合 計 2,137,859.8. グアラニース.

ハ 最高級所得者の営農状況

(F氏=1957年(昭32)入植、家族5人稼働者4人=1963年2月現在)

土地所有面積 350ヘクタール

南経済面積 65 "

所有家畜 役牛2 耕牛1 豚、0(内成豚40) 鶏 30.

所有建物 住宅、炊事場、倉庫各1棟.

(収入)(A) 農業収入 420,000 グアラニース.

(耕作状況) マテ茶 11.5ヘクタール(5年生4.5、4年生7.0).

油桐 20.0 " (4年生2、3年生2、2年生20)

大豆 10.0 " 80,000 ^{キログラム} ~~キログラム~~

米 7.0 " 17,500. "

フェジソ 10.0 " 5,000. "

(B) 農外収入 270,000 グアラニース.

(支出)(C) 営農費 500,000 "

(D) 生活費 120,000. "

(E) 土地代 40,000. "

差引余剰 (A+B)-(C+D+E) = 40,000. グアラニース.

ニ 子弟教育

○ 学童数

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合 計
日本人	31	36	32	30	16	7	152.
現地人	—	1	—	2	1	—	4.
合 計	31	37	32	32	17	7	156.

注: A 現在の二校および仮上級校を新年度より統合決定.

B. 学童通学用としてスクールバスの購入を決定.

○ 教師数

オ一小学校 2名、オニ一学校 2名、仮上級校 1名

○ 日本語学校

毎週1回実施。生徒数、75名(1年19、2年28、3年43、4年42、5年17、6年26。)教師3名。

ホ 治安関係

富士組合の場合と同様

ハ 組合事業区域内に在る事業団建築の施設

- (1) 小学校2棟……オ一小学校およびオニ一小学校各1棟
- (2) 共同販売所1棟……組合事務所および販売部として利用
- (3) 倉庫 1棟
- (4) 保安官駐在所半棟……農協と接半建築
- (5) マテ茶オニ二次加工工場倉庫

6. アルトパラナ農業協同組合

1. 移住地の沿革

イ. 土地 旧移住振興会社が1958年3月、当移住地の中核をなすピラポ一地区約22,000ヘクタールをアルカストレ植民会社から購入してのをはじめとして、翌1959年6月にその東北側、カピタン・メケ移住地よりのカーレント地区約4,000ヘクタールを、2人の地主から、更に、同年10月西南側オスリカード移住地よりのアカカラジャ地区18,000ヘクタールを5人の地主より購入し、併せてアルトパラナ移住地と称し約3,000戸(ロツテ30ヘクタール)の日本人移住者を受け入れるべく造成に着手したのである。

ロ 造成工事

造成工事は1959年11月に測量工事より着手し現在までに約三分一地域が完了している。主なものをあげると

(イ) ロツテ割工事 90ノロツテ 27,390ヘクタール

(ロ) 道路工事 ○ 幹線新設(道路巾20メートル有効巾8メートル)

128.06キロメートル

○ 支線新設(道路巾16メートル有効巾6メートル)

172.88キロメートル

○ 市街地直路新設 8キロメートル

○ 域外道路補修 54.60キロメートル

○ 域内道路補修 42.20キロメートル

ハ) 橋梁工事

ピラポ大橋 コンクリート 40^{×10} × 7^{×10}

マンツビシュ橋 木橋 22.6^{×10} × 6^{×10}

小橋梁 2ヶ所

暗渠 16ヶ所

(二) 建築物数

管理本部事務所 (煉瓦建) 1棟
秋野町民会館 (") 1棟
家族会館 (") 3棟
警察本部 (") 1棟
茶室 (") 1棟
警察比前 (木造) 2棟
校舎並列兼作業小屋 (") 2棟
その他食堂、パオン小屋、車庫各1棟

(三) 遊戯機械

ブルトーカー D7 4台
" D4 1台
スクレーパー 1台
グレーダー 1台
トラック (イスク、トヨタ) 2台
ハーフトラック (フェールゴ) 1台
トラクター 1台
ジープ (ウリス) 4台
ステーションワゴン 1台

(四) ロックの命数

1ロック 30ヘクタールに正しく、凡そ2,000ロックを遊戯命数とする。

(1) 命数代金

一ブロックの場合 250,000円 (972.23坪)

分ブロックの場合 600,500円 (1,257.50坪)

(契約時 70,000円を預金とし残額を1ヶ年一括、5ヶ年分均等減額)

(2) 分譲の戸数

一均地	内地	1戸	100%
	外地	0	"
分譲地	内地	26戸	"
	外地	4戸	"
	計	30戸	"

2. 入植の経緯

1960年(昭和35年)10月、1次移住者がアカカワジヤ地区より入植を開始し、現在まで4回に亘り30名家族(1662名)が移住して来た。

このうち26家族(135名)のうちがアスンシオン、近郊、ペドロファン、カバリエロ(カマバハ)方面へ転居し、2家族6名は節を死すのため帰国している。

またこの17のドミニカより2家族(22名)が転居して来ており、現在の定着数は28家族(1625名)である。

3. 組合の設立

この組合は1960年11月3日初年度入植者26戸中新規6戸を除き20戸により移住地全体を専業区とする組合として創立された。

(当初地区全体を一つの専業区とするが、造成回工区毎の組合と下記に付き相互研究のため結構全体で一つの組合として発足)

翌1961年10月6日正式に「アムパサ農畜共同組合」として農牧省に認可された。認可時組合員数26戸

組合の専業として、畜産物の生産販売、生活必需品の購買、畜産物の輸送並びに信用事業である。

他の農区に比し、専業区が亦大に今の現在より更に支所(一つは本所を在り)を置いている。

4. 認可年月日

1961年10月6日

5. 組合の事業と面積(別添図面)

約 14,000 ヲガール

6. 組合員数

220戸 (1625名)

7. 組合の役員

理事 9名 (任期 1年)

(専務常務)

監事 3名 (")

8. 大倉金

1. 1口 1,000 ヲガール = 1元 x 41株 = 41,000 ヲガール = 1元

可設 加入時現金 2,000 ヲガール = 1元

或は指定銀行の国庫貯蓄金の4%を積立

2. 組合の目標額 11,198,000 ヲガール = 1元

3. 既出の大倉金総額 1,574,263.74 ヲガール = 1元

9. 組合の設備

1. 建物... 平成製菓部 3棟 (1077.22 K, 230.22 K, 13 K各1棟)

数員宿舎 2棟 (700.72 K, 17 K各1棟)

2. 工場 製菓所 (カールズ一基 1957年)

3. 車輛 トラック 2台 (札幌 9止 1台 120.6 K 1台)

ジープ 3台 (乗人会より借上) (作業用)

小型トラック 1台 (")

オートバイ 2台

10. 営況状況

1. 1965年度末所有家畜数(飼養対象家畜 220戸)

2. 牛 77頭 (肉牛 26, 乳牛 51 1965年1月) 馬 10頭 (乗馬)

豚 200頭 (肉) 羊 7頭 (肉)

10. 1962年度迄の永年作物植栽面積

年次	種類別 (単位 179-ル)		
	油桐	茶	柑桔
1961年	170.0	20	
1962年	924.6	55.25	30.0
合計	1,094.6	57.25	30.0

ハ. 1962年永年耕地総面積 2,227.79-ル

(1戸平均開墾面積 9.77-ル、永年延面積 10.74-ル)

ニ. 1戸平均粗収入 64,420 777=-ズ

ホ. 1戸平均労働数 57.25 777=-ズ

(ニ、ホは、1961年度入植者、66戸、計、平均値と推定調査表の中程度、1戸平均を平均と見做すのである。)

11. 参考事項

ハ. 標準的農家の営農例

1. (U氏 1960年8月入植)

土地所有面積 30.74-ル (村保付地 20.74-ル)

家族数 6名 (耕作者 2名)

(収入)

水稻 1.74-ル (600kg) 11,600 777=-ズ

雑豆 2 " (1,000 ") 8,200 "

煙草 2 " (2,500 ") 80,000 "

合計 99,600 "

(現金収入 88,100 777=-ズ)

注 ① 水稻は自家飯米として採育

② 他に野菜、マングロ 1.74-ル栽培、鱒60尾飼育せり採算せず。

(支出)

生活費

主食費 10,000 円 = 下
(半年度は銀味購入)

副食費 5,000 "

嗜好品 10,000 "

被服費 1,000 "

医療費 1,000 "

交際費 500 "

光熱費 1,200 "

教養文化費 500 "

その他 500 "

④ 小計 34,200 "

⑤ ② (H.氏 1960年小作入植)

土地所有面積 30,777-N (町界付地 18,777-N)

家族数 1名 (嫁内村 4名)

(収入)

水稻 0.3 777-N (1260 kg) 25,000 円 = 下

大豆 5 " (10,000 ") 20,000 "

水豆 3 " (6,500 ") 20,000 "

雑豆 2 " (1,000 ") 14,000 "

取肉、豚油 8,400 "

雑収入 1,600 "

109,000 "

(現金収入 66,800 円 = 下)

注: ① 水稻は全部自家飯米として保有

- ② 又不在部 27,000 碑(宗)總領科
- ③ 特巨元部 2,000
- ④ 所村、縣信、石台家河部
- ⑤ 緋、卯流部 800

(以下)

女部數		撥款經費數	
主食部	8,000 7470-2	校部	1,200 7470-2
(一部 總A)		校部	500 "
副食部	1,500 "	中小子部總A部	3,000 "
嗜好部	1,000 "	花部部部	6,500 "
被服部	1,200 "	小部部	1,000 "
学校教育部	800 "	菊部(前部)	15,500 "
医療部	10,000 "	"(部部)	19,500 "
交際部	300 "	聯合部部部部	200 "
光熱部	3,600 " ②	小部	47,400 "
敬養文化部	300 "		
① 小部	27,000 "	①+② =	76,000 7470-2

四 早業部
・ 勞働部

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
町本人	126	122	92	21	-	-	361
外地人	12	9	7	2	-	-	31
合計	139	131	106	23	-	-	404

注: 現在 7000 7470 20K, 17K 比部 22K 120 比部
13K 女校部。

○ 教師数

アカカラジャ 23 料 4 名 アカカラジャ 17 料 2 名 ピラポ
22 料 3 名 ピラポ 13 料 2 名 (内 1 名日系)

○ 日本語学校

現在ピラポ 22 料校のみにて 2 教師を置き毎週 1 日実施中
あるが、他地区がより強い要望があるため前校研究中である。

ハ、治安関係

地区内ピラポ市街予定地に警察庁舎も建築請願審査を雇傭。
なおこの警察署次席にラ・フォルメナニセ橋本軍曹(先)を採用し
通訳を兼ね 2 日本人の便宜をはかっている。

ニ、組合事業区内に在る事業団建築の施設

(イ) アカカラジャ 23 料地帯

收容所兼校舎 (木造)	2 棟	アカカラジャ 23 料 收容所として利用
倉庫 (")	1 "	組合購買品倉庫
共同販売所 (")	1 "	組合本所事務所 購買部利用
移動事務所 (")	1 "	取調宿舍として貸与

(ロ) アカカラジャ 17 料地帯

收容所兼校舎 (木造)	1 棟	アカカラジャ 17 料 校舎として利用
倉庫 (")	1 "	生産物搬入倉庫
共同販売所 (")	1 "	旭支所事務所兼購買部 買部

(ハ) ピラポ 22 料地帯

收容所兼校舎 (木造)	2 棟	ピラポ 22 料校舎と
-------------	-----	-------------

して利用

倉庫 (木造)	2棟	生産物搬入倉庫
共同販売所 (〃)	1〃	ピラポ支所事務所兼 購買部

(二) ピラポノ3料地帯

収容所兼校舎 (木造)	2棟	1棟はピラポノ3料 校舎として利用 1棟は収容所として 使用中
共同販売所 (〃)	1〃	ピラポノ3料支所事 務所兼購買部

(ホ) ピラポノ7料地帯

収容所兼校舎 (木造)	2棟	現在収容所として使 用中
倉庫 (〃)	2〃	現在新来移住者携行 荷物倉庫
共同販売所 (〃)	1〃	現在農産購買品移動 販売所

(ハ) カレンズーノ5料地帯

収容所兼校舎 (木造)	1棟	カレンズーノ5料地帯 入植移住者受入のため
倉庫 (〃)	1〃	〃
共同販売所 (〃)	1〃	〃

(ト) カレンズーノ8料地帯

収容所兼校舎 (木造)	1棟	カレンズーノ8料地帯 入植移住者受入のため
-------------	----	--------------------------

倉庫 (木造) / 棟 カレンズー8料地帯
入植移住者受入のため

共同販売所 () / "

(2) 事業団の施設

イ アルトパラナ事務所

現在ピラホ市街地に事務所をおき前記造成関係経費による施設、機械等をもって移住地の造成、移住者の受入、定着、農情指導等の任にあつてゐる。

ロ イタプア指導農場 アルトパラナ本場

ピラホエス料地帯に昭和初年度より開設に着手し、目下鋭意整備中である。

農場面積 100 ヘクタール
(現在約35ヘクタール程度)

施設

事務所本館 (煉瓦建) / 棟

収納舎 () / "

職員住宅 () / "

" (木造) 2 "

ペオン小屋 () 2 "

が37年度予算にて新築(又は移築)整備された。

その他旧受入事務所々在地に

独身宿舎 (木造) / 棟

(旧事務所)
車庫 () / "

配電庫 (煉瓦建) / "

ペオン小屋 (木造) / "

がある。

車輛類としてはトラック、ジープ、トラクター、各ノ台を準備して
いる。

ハ アルトパラナ(ピラホ)診療所

ピラホスエ料地帯に診療所を設置し、医師ノ名(産婦人科兼
外科)及び看護婦ノ名が附随している。

施設としては 診察室兼病棟 (木造) / 棟

医師住宅 () / 棟
(現在居室として利用)

なお現在ピラホの管理に於ける病院の予定は煉瓦積の診察室兼
病棟を建築中であり、近く移転の予定である。

その他、医師住宅として煉瓦建木造各ノ棟が建築済。

ニ その他

その他の施設としてはピラホスエ料地帯に木造、取鼻病
舎、ス棟、ピラホ中街地には57年度予算の政務所兼校舎
の棟を合同にて施設(将来総合学校等として利用)が建築
されている。

ア イグアス農業協同組合

(1) 移住地の沿革

イ 土地

首都アスンシオンから国際道路にて東方286キロメートル
ブラジル 国境の手前、41キロメートルの位置に、国際道路を
はさんで購入した移住地で、総面積 約88,000ヘクタール。
殆どがテラーロシヤ（玄武岩の風化した肥沃な土壌である。
国際道路は目下在銀の借款によりアスファルト舗装を行って
おり、近く完成する見込みであるが、これが完成した場合
雨天の交通止めはなくなり、生産物の販送に非常に有利に
なる。

ロ 造成工事 (1963. 3)

1961年より翌年にかけて 航空写真測量を実施した。

イ) ロツテ割工事

現在迄に 276 ロツテ

ロ) 道路工事

道路中 20メートル - 有効中 7メートルの道路

現在仕上 40,794. 55メートル

ハ) 橋梁 暗渠工事

橋梁 102 所 (土橋)

暗渠 381ヶ所

ニ) 建物施設

(本部) 假事務所 (木造) 1棟

所長宿舍 ()

社員 () 2棟

職員 () 1棟 (2家族用)

- 独身宿舎 (木造) 1棟
- 車庫 (木造) 2棟
- 支部事務所兼宿舎 (木造) 1棟
- 車庫 (木造) 1
- 警察七所 (木造) 1
- 監視所 (木造) 1

(ホ) 造成機械

- ブルドーザー 2台
- スクレーパー 1
- グレーダー 1
- トラクター 1
- トラクタワーク 1
- トラック (トヨタ) 2
- 小型トラック 1
- ジープ 1
- ステーションワゴン 1

ハ ロツテの分譲

1ロツテ30ヘクタールに区画

(イ) 分譲代金

- 一括払の場合 400,000円 (1,111,126円)
- 分割払の場合 529,000円 (1,469,454円)

(契約時80,000円を頭金とし残金は4年一括返済5年均等年賦)

(ロ) 分譲ロツテ数

分割払 16ロツテ (日本よりの入植者到着率の数字である)

(2) 入植の経緯

1961年8月 4マバス フラム地区 入植者1 = 三男 147(95%)

を主として、分家的意味と日本からの移住者受入れの基地的意味で入植せしめたのが、はじまりである。

その後、国内より2戸の希望者があり16戸となった。

日本よりは、本年はじめて7戸が到着したところである。

組合としては、入植者数が少ないため未だ任意組合であるが、近く法定組合にすべく手続をとるこゝになつてゐる。

(3) 支資金

現在各戸 1,000ギラニースで 計 16,000ギラニース

(4) 営農状況 (1962年度末現在)

イ 1962年度植栽別作付面積

(永年作) 甘藷 2.7ヘクタール

マテ茶 0.5 "

牧草 11.15 "

(短期作) トウモロコシ 23.0 "

大豆 17.6 "

ポロット 8.1 "

雑豆 9.3 "

米 3.7 "

マンジカ 12.7 "

(家畜) 豚 142頭

鶏 813羽

ロ 1962年度 作付総面積 95.66ヘクタール

(1戸平均約 6ヘクタール)

ハ 1戸当り平均粗収入

ニ 〃 生活費

ホ 〃 営農費

(5) 参考事項

1. 1 農家の経営例 (5氏 = 家族4人 稼働者 2人)

土地所有面積 30ヘクタール
 所有家畜 豚 19頭 鶏 100羽
 所有建物 家屋 48坪オートル 畜舎 48坪オートル

収入

(農外収入)	種類	作付面積	収入
(A) (永年作)	柑きー	1ヘクタール	0 1777=入
(短期作)	水陸稻	0.2 "	4,000 (自家)
	桜口ゴシ	3.0 "	36,000 (")
	大豆	0.8 "	6,400 (")
	野菜	0.5 "	55,000 (⁴⁵⁰⁰⁰)
	マンシカ	0.5 "	0
(家畜)	豚肉		28,000 (¹⁰⁰⁰⁰)
	卵及卵巣卵器収入		25,000

131,400

(内自家消費)

残 75,000

(農外収入) 被雇 労賃 3,000 7777=入

(B)

支出

(農業経営費)	種類	収入
(C)	肥料	5,000 7777=入
	種 苗	3,000 "
	薬 劑	3,000 "
	中小仔畜購入費	2,500 "
	小農長購入費	10,000 "

	その他	2,500	1773=2
	計	26,000	"
(生活費)	主食費(食料)	5,000	"
	副食費	1,000	"
	嗜好品	5,000	"
	被服費	5,000	"
	交際費	2,000	"
	光熱費	1,500	"
	医療費	500	"
	その他	410	"
	計	21,410	"

差引余剰

$$(A+B) - (C+D) = 30,690 \text{ 773=2}$$

ロ 子弟教育

現在学童として日本人11名(1年6、2年5) 現地人1名(1名)を算入のみである。

教師1名(色口公認)

ハ 移住地内に在る事業団建築の施設

(1) A地区

収容所兼校舎 1棟………現在小学校として利用

共同販売所 2棟………1棟は現在総合事務所兼購置部として利用

倉庫 1棟………農場用地内に建築してこの地域の移住者受入後に農業講習所として利用の予定

(6) 華業田の施設

イ イグマス華業所

現在 H工区内に前記造成関係経費により施設 機械等をもって華業所をもち、移住地の造成、移住者の受入定着、農研指導の任にあたり、

ロ イグマス一指導農場

市街予定地台側E地趾に100ハクタールの面積をもち、昨昭和37年未より施設に着手した。

施設

本館事務所	(煉瓦建)	1棟
収納倉	(木造)	1棟
車庫	(木造)	1棟
職員住宅	(煉瓦建)	3棟
パオシ小屋	(木造)	2棟
車輛類	トラック	トラック

小型トラック ジープ各1台

ハ イグマス一診療所

昭和37年度予算に「農場に隣接し、木造診療所が建築され、現在医師1名(内科兼小児科)及び看護婦1名が常駐している。

施設	診療所(木造)	1棟
	医師住宅(煉瓦建)	1棟

8. アマンバイ長菜栽培組合

(1) 組合の生立ち

1956年(昭和31年)より1957年(昭和32年)にかけて、ペドロファンカバリエーロ市に在る米人経営のCAFE耕地(社長ジョンソン氏)にコロノとヒマ入植した移住者128戸は中途でCAFE耕地の経営不振から来る賃金遅払いのため多くの退耕者を出した。その後CAFE耕地は更に不振となり、1957年10月には遂に破産宣告を絶するに至った。なを、契約満了時の1960年には、日本人は60戸に減少したが、此等の者は自活の道を切り開くべく自営農として進むことになり、入植地の調査、選定、土地購入資金の導入のため先ず任意組合を結成した。

更に法定組合とすべく1960年(昭和35年)12月、63名に依り創之総合会を開催す。その後、他地域からの転住者も含め現在では百余戸を算えるに至った。

(2) 認可年月日 昭和36年6月8日

(3) 組合の事業区面積(別添図面) 2,099ヘクタール(組合員所有面積)

(4) 組合員数 117戸

(5) 組合の役員数

理事長 7名(任期1年)(専務常勤)

監事 3名()

(6) 出資金

イ. 最低3,000グアラニースを加入時出資、以後農産物販売代金より積

(昭和38年度には出資金積立を1戸1,000グアラニース)

ロ. 組合の目標額(1組合員当り50,000グアラニース)

ハ. 既払込出資額 727,443グアラニース

(出資金685,000 積立金42,443)

(7) 組合の資産

イ 建物…組合事務所兼倉庫1棟、理髪店1棟、車庫1棟

ロ 車輛…ジープ(半業団貸与)

(8) 営農状況

イ 1962年度迄の永年作物植栽状況

・ 植栽総面積 5816.87ヘクタール(土地開拓面積)

・ コーヒー(2年生以上)182,662本(1年生)281,171本(1ha 1,000本)

・ マチ茶 40,477本(内成木5~6年1,650本)(1ha 1,000本)

・ 果樹外 5,619本

・ オリーブ 500本(6m×6m=1ha 300本)

ロ 1962年度末所有家畜頭数

乗馬 26頭

鶏(白レク) 5,000羽
(産卵率70%)

肉牛 62頭

肉豚 437頭

ハ 1戸平均粗収入……

ニ “ 生活費……31,000ペアラニース

ホ “ 営農費……

(9) 参考事項

イ 1962年度に組合で委託販売した農産物

マリス 657俵 77,283ペアラニース

菜豆 184俵 16,107.8 ”

粳(白米) 54 ” 33,206 ”

小豆 33 ” 2,400 ”

大豆 3,349 ” 1,176,702 ”

小麦 973 ” 483,253 ”

雑豆 2 ” 6,300 ”

ヒマ 36 ” 14,714 ”

豚油	4缶	2,352	グアラニース
總 卵	1,221打	30,589	"
セルバ	1俵	393	"
馬鈴薯	115俵	63,050	"
合 計		2,098,770	"

□ 最高級所得者の例

S氏(サンハフイタン) 稼働者5人の例

所有面積 20ヘクタール (サンハフイタン)

500 " (カピタンバード)

(永年作) コーヒー 13ヘクタール 10,000本 2年生取入れなし

(短期作(A)) マイス 13ヘクタール @ 2,400kg

穀	79 "	@ 600kg	42,000	グアラニース
フェジョン	76 "	@ 800kg	60,800	"
大豆	225 "	@ 400kg	90,000	"
野菜(馬鈴薯)			106,000	"
豚			14,000	"
合 計			342,800	"

農外収入(B)

機械類貸賃料	50,000	グアラニース
その他	2,000	"
計	52,000	"

農業経営費(C)

肥料	62,000	グアラニース
種 苗	11,000	"
薬 剤	15,000	"
諸材料	12,000	"

	光熱動力費	25,000	7アラニス
	小農具費	2,000	"
	労賃	72,000	"
	農舎農具修理費	15,000	"
	その他	2,000	"
	計	216,000	"
家計支出(D)	主食	0	"
	副食費	45,000	"
	嗜好品	1,000	"
	被服費	7,000	"
	学校教育費	2,000	"
	医療費	5,000	"
	交際費	2,000	"
	光熱費	3,000	"
	その他	5,000	"
	計	70,000	"

差引余剰 (A+B)-(C+D) = 335,800 7アラニス

ハ、子弟教育

(イ) 一部パドロファンカバリエーロ市の既設小学校に通学しているものもあるが、遠隔地に入植した者は現在スペイン語による母国の教育は受けていない。

(ロ) 近時サンハフィクン、シリグエイロに各1校公認校を希望すべく陳情中。

(ハ) 日本語学校 現在またる地区に私設小学校を児童生徒数72名、教師数4名。

9. イタプア農業協同組合連合会

(1) 沿革

イタプア県下に入植した日本人移住者はそれぞれ地域毎に農業協同組合を結成(チヤベス・密士・ラパス・サンタ・ローサ)したが、小さな組合個々では生産物の販売にも隘路が多く、また、生活必需物資の購入も余り思ひしくないため、1958年春頃より、これ等、単協を組合員とする連合体を組織し有利に販売購買が出来るようにしようの気運が盛り上り、各農協の組合長、専務合同協議の結果、連合会を組織することを決定した。

そしてしばらく任意団体の連合会として進んだが、1959年2月25日法定組合としての創立総会を開催した。

その後、運賃フル問題で一時期チヤベス組合の脱退さゆきも有ったが、再び復帰し今日に至る。

(2) 認可年月日 1959年10月16日

(3) 構成組合

(結成時) チヤベス・密士・ラパス・サンタ・ローサ

(その後加入) アルトパラナ

(4) 連合会の役員

理事：各単協役員より3名 計15名(任期2年、会長専務は役員の選)

監事：3名 (任期2年) (チヤベス・密士各1名、アルトパラナ1名、ラパス・サンタ・ローサ各1名)

(5) 出資金

イ. 1口 1,100,000 グアラニース

(A) 加入時現金 100,000 グアラニース、以後早期に払込む。

(5) 一部出荷販売代金より1%積立

(当期積立4%の内1%)

ロ 目標額 5,500,000 グアラニース

ハ 既払込出資金額 1,242,008.82 グアラニース

内訳 チヤバス 177,302.82 フジ 251,443.67
 ラパス 236,481.47 サノロサ 391,344.02
 アホバチ 185,436.72

(6) 連合会の資産

イ 建物 倉庫1棟 車庫2棟 麻袋工場1棟 宿舍1棟
 発電室1棟 アランプレ施設

ロ 車輛 トラック1台(バンツトトレー付)
 小型トラック(フリンス)1台

(7) 主な事業および成績(1962年度)

イ 受託販売事業

(I)

	受託販売	合格品	不合格品	代 金	手数料	支払金額
ライス	3,461,108.87	3,423,267.87	237,841.57	14,525,132.28	143,062.28	12,738,129.12
大豆	2,170,181.00	2,100,213.00	27,368.00	12,516,104.58	125,110.55	12,330,824.35
合計				33,041,136.72	328,163.23	32,268,973.52

(II)

	受託販売	代 金	手数料	支払金額
桐花	367,637.47	6,538,985.46	65,028.73	6,173,956.56
養肥生	11,704.00	97,246.00	972.45	96,273.24
小麦	19,754.00	167,692.00	1,676.72	165,754.00
大豆	3,502.00	63,036.00	1,260.72	61,799.28
合計		6,866,959.46	68,938.62	6,795,785.24

注 小麦の場合印紙代として584.00 グアラニースを納入

ロ 購買事業(単位グアラニース)

繰越商品 4,809,864.49

仕入高 13,690,442.00

売上高

売上高	17,031,675,-
商品残高	2,316,888 ⁶⁰
当期売利益	848,256 ⁹²
利率	4.98%

ハ 運輸事業

事業用貨車とトラック（イヌス6ト）6台（内1台はアルト
パラナへ転貸）およびバンツ9ト車にて農産物運搬
購置品搬送等を行った。

運賃収入合計 2,419,468⁸² グアラニース

ニ 給油事業

ESSOと契約スタンド経営を行う

（主たる目的は資金操作のため）

ホ 信用事業

(イ) 当座預金（市中央銀行）

年間預金高 14,769,753⁹² グアラニース

年間引出高 14,365,418⁸² ”

(ロ) 当座預り金（単協より）

年間預り高 70,673,402⁷² グアラニース

年間引出高 66,872,413⁸² ”

(ハ) 貸付金

年間貸付高 4,627,411¹⁶ グアラニース

年間返済高 4,099,104⁸² ”

ヘ 利用事業

(イ) 穀物乾燥工場（事業用貨車）

乾燥数量 369,161 Kg（コメ、大豆）

利用料収入 1,10,975⁸² Bs

(ロ) 麻袋工場

原反をバキスタンより輸入しホルサに加工、組合員に配布している。

ト 宿泊所

移住者の便をはかるため実費方針で宿泊所(農協連事務所附近)を経営、購買および書籍のあっせんも行っている。

チ 道路委員会

事業団貸与のグレーダー1台で労働手帖による収入を主な予算とする。

委員長 会長

委員 農協連参事、各単協事務理事(サンタ・ロサの組合員)

リ 参考事項

(イ) 1963年度指定農産物

短期作

とうもろこし(マイス) 大豆 棉花(従前指定の小麥落花生は除外あり)

永年作

油桐(マテ茶葉加工の都合上本年度は準指定とす)

(ロ) 事業団より貸与を受けている施設、機械類

a. 施設 (バクワア) 乾燥工場

(乾燥機、発電機を含む)

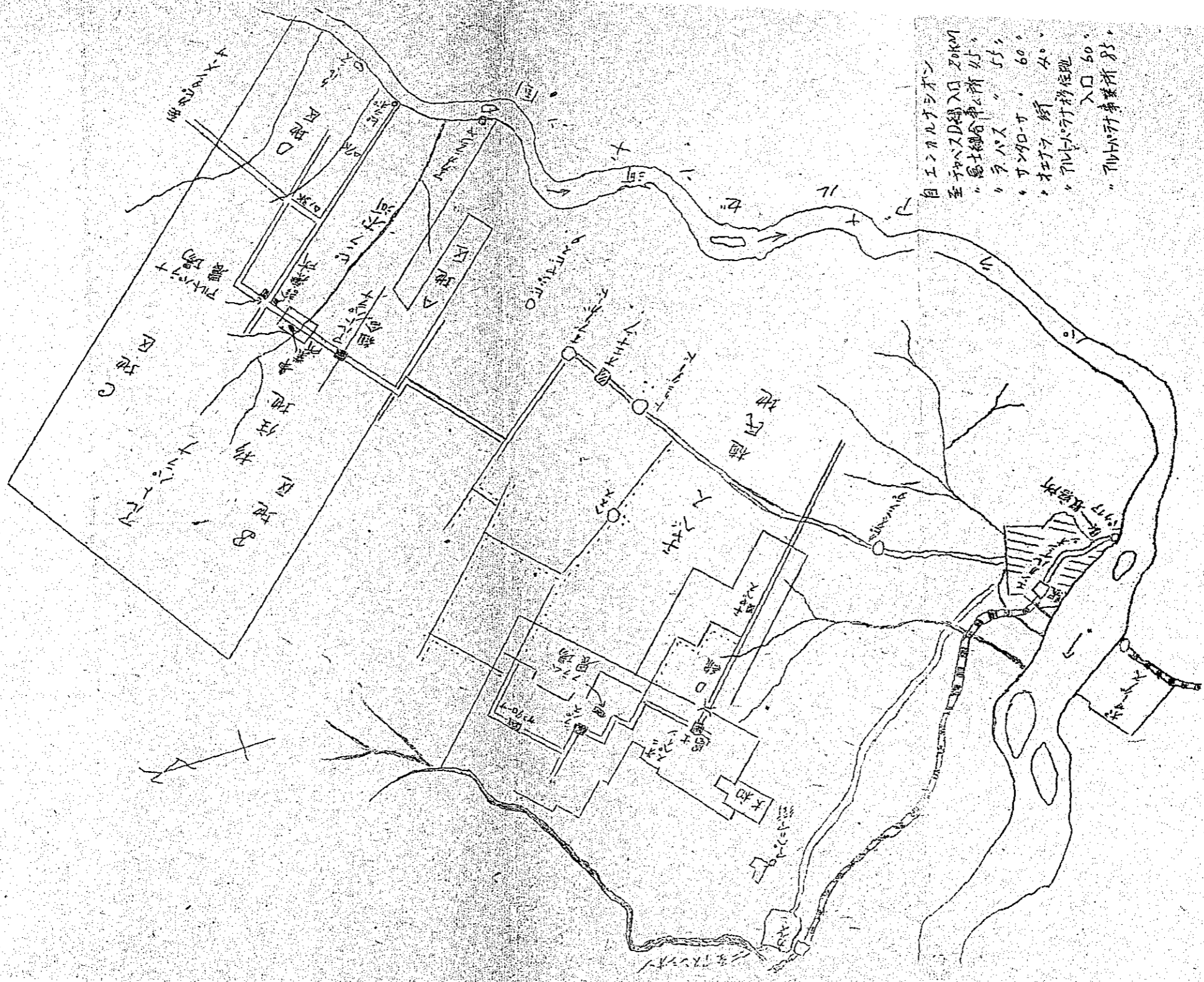
(サンタ・ロサ) マテ茶葉2次加工工場

(予定)

b. 車輛 4スストラック(ディーゼル6車)6台

グレーダー 1台

イタアア果内日本人移住地署図

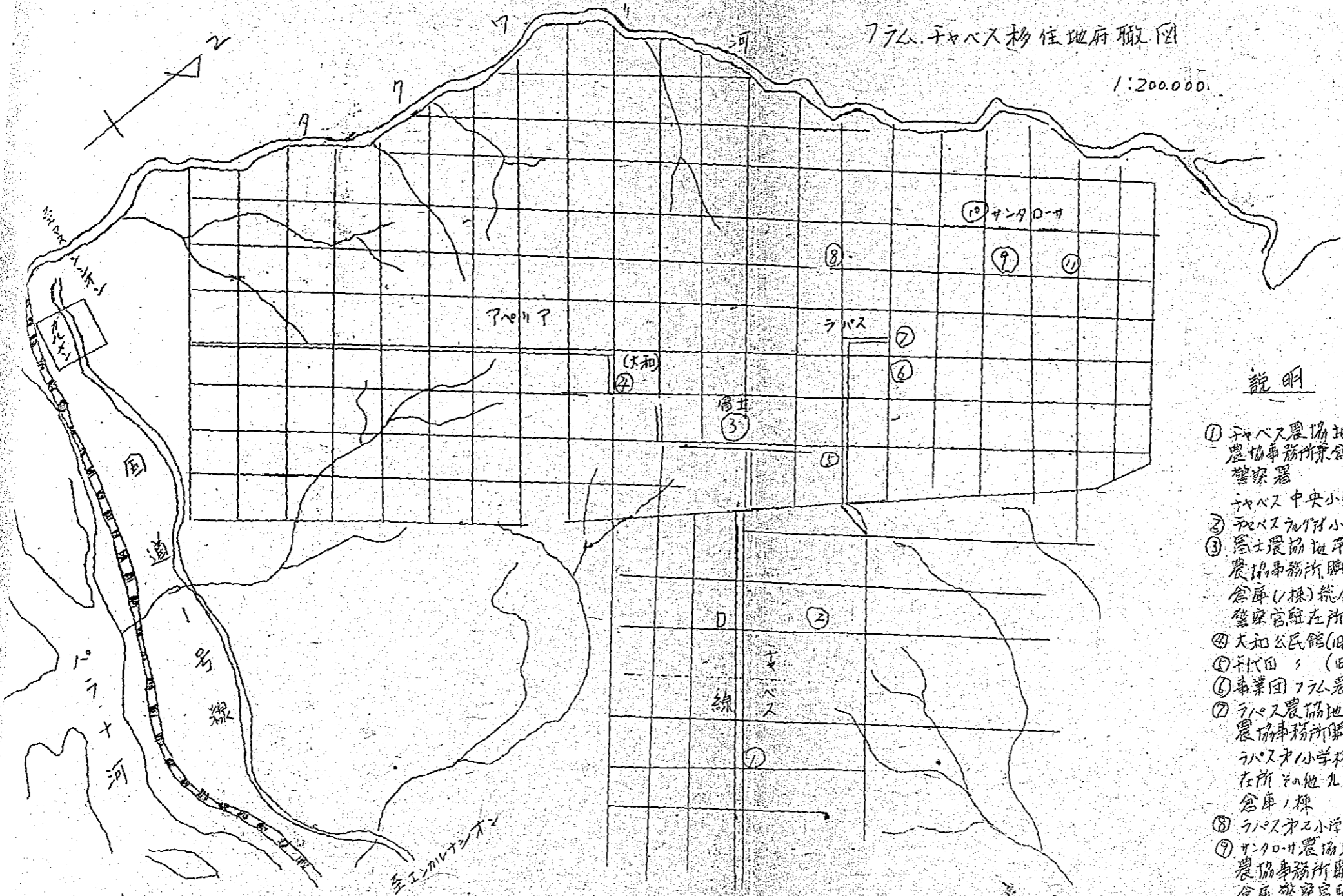


自エカルガシオン
 至バスD橋入口 200M
 " 巴士組合事務所 45
 " マバス " 55
 " サンロサ " 60
 " オエラ街 40
 " リバポナ移住地
 入口 50
 " リバポナ事務所 85

イタアア

776. 千々バス移住地府取図

1:200,000



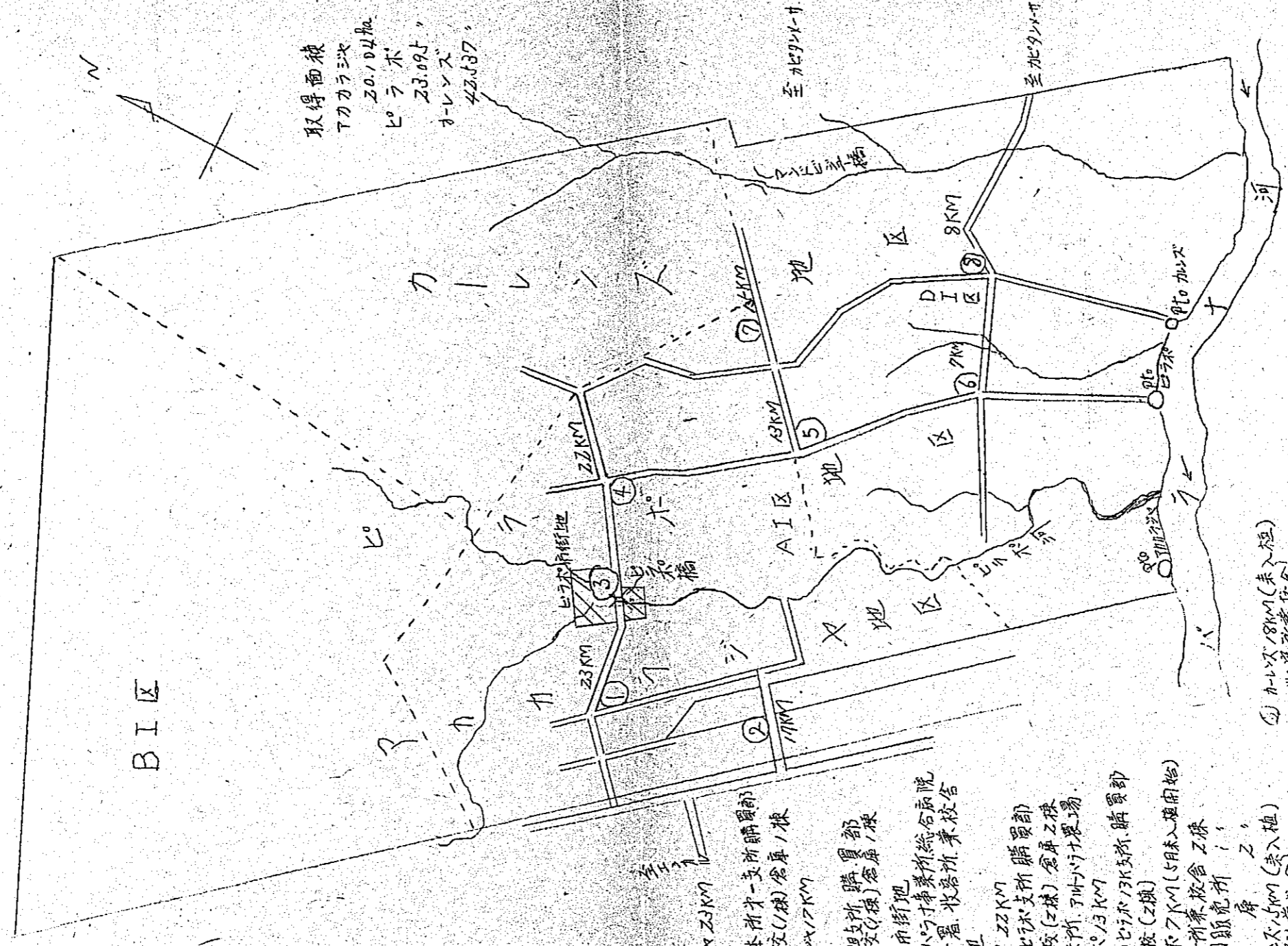
説明

- ① 千々バス農協地帯
農協事務所兼倉庫購買部
警察署
千々中央小学校(2棟)
- ② 千々バス初等小学校(1)
- ③ 高土農協地帯
農協事務所購買部
倉庫(1棟)総合小学校(2棟)
警察官駐在所
- ④ 大和公民館(旧初小学校)
- ⑤ 千代田 (旧秋田)
- ⑥ 事業団千々農場
- ⑦ 千々バス農協地帯
農協事務所購買部倉庫
千々バス小学校警察官駐
在所 千々地区に
倉庫1棟
- ⑧ 千々バス小学校
- ⑨ サンタロサ農協地帯
農協事務所購買部
倉庫警察官駐在所
上級小学校千々バス
加工工場

その他サンタロサ事業域内に行奈
才加工工場3棟
⑩ サンタロサ才二小学校
⑪ 才

アルトパラナ移住地府職図

1:320,000



取得面積
 アカラシマ 20,104ha
 ヒラポ 23,095ha
 オレンス 42,537ha

説明

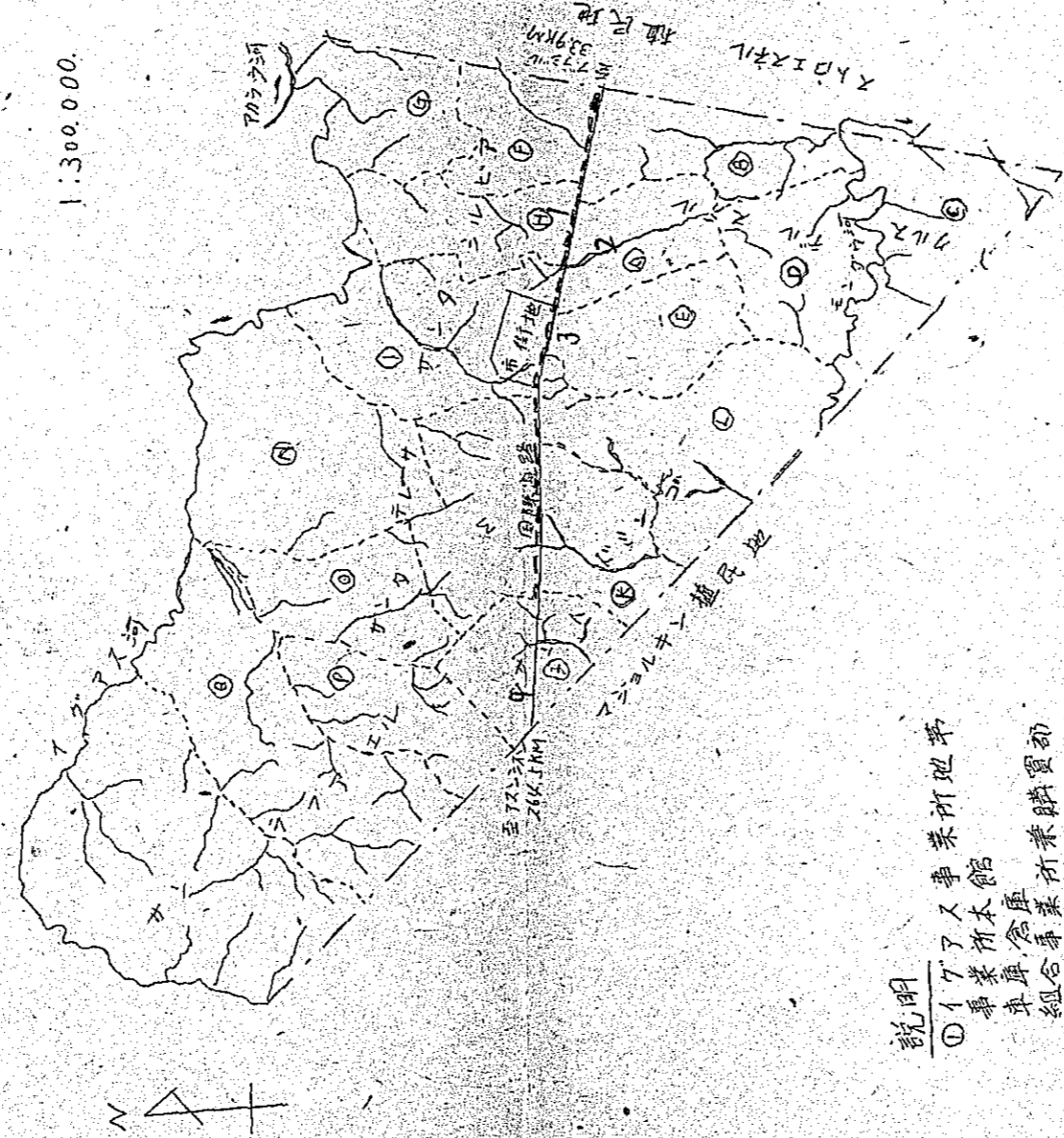
- ① アカラシマ 23KM (施設)
農協本部 支所 購買部
小学校 (1棟) 倉庫 1棟
- ② アカラシマ 17KM (施設)
農協本部 支所 購買部
小学校 (1棟) 倉庫 1棟
- ③ ヒラポ市街地
アルトパラナ事業所 総合病院
警察署 収容所 兼 校舎
墓地
- ④ ヒラポ 22KM
農協本部 支所 購買部
小学校 (2棟) 倉庫 2棟
診療所 子供遊戯場
- ⑤ ヒラポ 13KM
農協本部 支所 購買部
小学校 (2棟)
- ⑥ ヒラポ 7KM (5月未入植開始)
収容所 兼 校舎 2棟
共同販売所
倉庫 2棟
- ⑦ カラス 18KM (未入植)
収容所 兼 校舎
共同販売所
倉庫 1棟

才 4 図

イゲアス移住地現況図

アラバトイゲアス

1:300,000

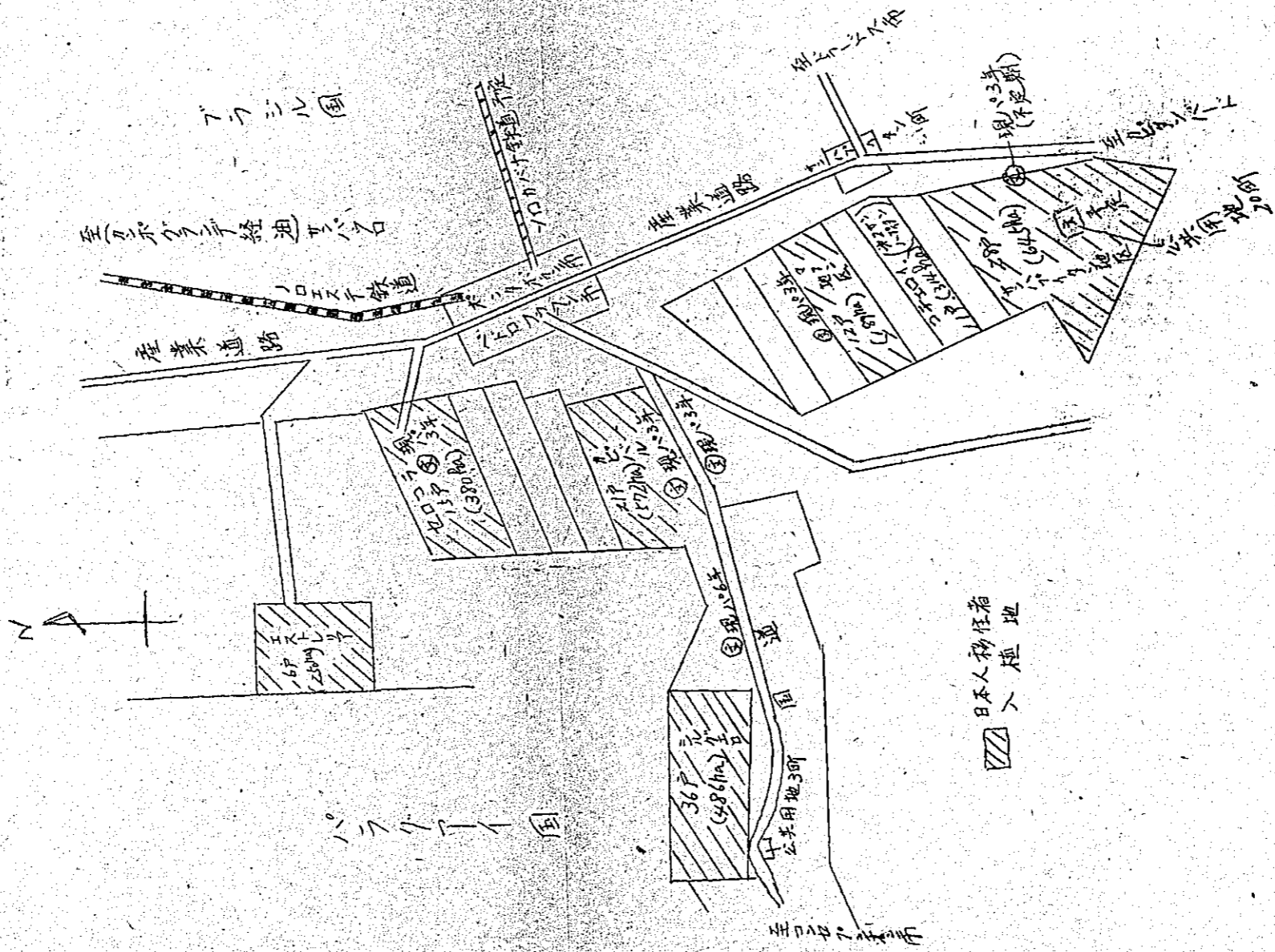


説明

- ① イゲアス事業所地帯
事業所本館
事業所倉庫
事業所組合事務所
- ② 現入植地 / 模稜 (収容所兼)
小倉 / 小倉同業 / イゲアス同業
倉庫 / 倉庫
- ③ 農地 / 農地
農地 / 農地
農地 / 農地
農地 / 農地
- ④ 丁地区
丁地区
丁地区
丁地区

才 5 四

アマンバイ移住地畧図



才6図

